

みまもりの「わ」事業

発表者：宮代町社会福祉協議会
地域福祉担当 高橋
日 時：令和7年12月19日(金)

南埼玉郡 宮代町

◆総人口:33,367人(15,788世帯)(2025年11月末現在)

◆高齢化率:32.8%(2025.11月末現在)

※50%越えの地区と20%以下の地区が混在



宮代町の未来像

「首都圏でいちばん
人が輝く町」



【本日の内容】

- ①宮代町の現状(みまもりの必要性・背景)
- ②みまもりの「わ」事業とは
- ③みまもりのポイント
- ④実例の紹介
- ⑤これからの展望・まとめ

①宮代町の現状

- 高齢者の増加(高齢化率約33%)
- 高齢者の単身世帯の増加
- 自治会加入率の低下(現在50%後半)
- 地域のつながりの希薄化
- 孤独死もあり(年間数件)
- ひきこもりの方も増加
- 虐待の増加

※地域ではさまざまな課題を抱えています。

自治会の加入率の低下に危機感
(地域でも人に無関心な方の増加)



社協としてこれはなんとかしないといけない！！



みまもりの「わ」事業の開始
(令和4年9月1日)

②みまもりの「わ」事業

【目的】

個人や団体、お店や事業所など、町内の様々な立場の方が、地域の見守りを行うことで、異変を早期に発見し、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

【活動】

定期的な訪問なし。個々の活動や生活の範囲内で、できるときにできるこを行う。 無理のないさりげない見守り。 何かおかしいなと思った時だけ社協へ連絡！（町や高齢者相談支援センターと連携。）



普段の生活の中で「みまもりの意識」を持ってもらうことが大事。

みまもりの「わ」事業の種類・対象者

【みまもりの種類】

みまもりさん・・・個人で登録をする方

みまもり団員・・・団体で登録をする方

みまもり協力店・・・店舗、事業所で登録をする方

みまもり対象者

・単身高齢者、障がい者、DV世帯、ひきこもりになってしまった方等。

みまもりさん
・みまもり
団員に配布

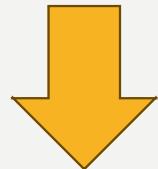


みまもり
協力店にシール
を配布

③みまもりのポイント

- ・郵便物が貯まっている。
- ・洗濯物が出しちゃなしなくなっている。
- ・きれいだった家がゴミが外に増えてきている。
- ・雨戸やカーテンが閉まりぱなし。（その逆）
- ・怒鳴り声や泣き声が聞こえる。
- ・以前と様子が違ってしまっている。（認知症？）

みまもりの「わ」事業の説明会の開催



- ・最初の説明会には 15 名の方が参加。

みまもりの「わ」事業の趣旨に賛同いただいた方が・・・

スーパーみまもりさんが誕生

・一人で100名のみまもりさんを勧誘（1軒ずつ、みまもりの「わ」事業の趣旨を説明し、事業を理解して加入をしていただく。）

みまもりの「わ」事業の登録数(令和7年11月末)

みまもりさん……153名

みまもり団員……40団体(811名)

みまもり協力店……40店舗

③事例の紹介

事例1

コンビニエンスストアからの連絡

- ・揚げ物を1時間置きに、5個ずつ買い物をして行く高齢者がいて、これが数日続いたため、店員さんがおかしいと感じて社協へ連絡。



- ・社協から高齢者相談支援センター（旧地域包括支援センターに連絡）に連絡した所、介護保険が切れていた方で、この件がきっかけで介護保険の申請につながった。

事例2 お弁当配達業者からの連絡

毎日お弁当を配達している世帯で、いつも玄関の扉が空いていて、空のお弁当が玄関の所に出ているが、その日は、昨日のお弁当がそのまま置いてあり、食べた様子が無かったようである。



お弁当屋さんが心配になり社協へ連絡。社協から町の福祉課へ連絡され、その後、町から地域の民生委員さんへ連絡しがちで悪く耳が聞こえます。このあいだお弁当配達業者が夕方までお仕事で忙しくて、お弁当を届けられず、お母さんは娘さんに連絡があり、「見守つた」と連絡がありました。娘さんは気付いて社協へ連絡をしてくださいました。

事例3 みまもりさんが人命救助

●ひとりで100名の方を勧誘していただいた方がいる地域

・その方を中心に日頃から学園台地区では見守りの意識が高く、その地区では週に1回集まって4～5人で情報交換をしている。

以前からひとり暮らしの高齢者を近所の方が把握をしていて、特にその方を気にかけていた。何かあった時のために前もって、娘さんの連絡先を聞いていた。ある日、いつも閉まる雨戸があきっぱなしになっていたことに気付いた隣の方が「これはおかしい」と思い、娘さんへ連絡。娘さんから本人へ連絡をしたが電話に出ない。翌日も雨戸が締まっていなかつたら、家の様子を見てくださいと娘さんから言われ、朝を迎えた。結局、朝になっても雨戸が締まっていなかつたので、その方の自宅のリビングがたまたま鍵がかかっていなかつたので、入ってみると、リビングの脇で高齢者が倒れていた。本人は、意識がもうろうとしていたが、すぐに救急車を呼んで命をとりとめた。退院後、本人は助けてくれた方に、「このまま死んでしまうのかな」と思ったと伝え、とても感謝をされたそうです。

広がれ見守りの輪

見守りの輪が広がりますように」。宮代町社会福祉協議会は、個人や団体、店舗、事業所などさまざまな立場の人々が地域の見守りを行つ「みまもりの『わ』」事業を行つてゐる。特徴は定期訪問などは行わず、個々の活動や生活の範囲内での「無理のない見守り」。同町社協の高橋英治主査は「新たに何か活動しなくても日々の生活の中で見守りができることが多い多くの人に意識してもらえた」と語る。

(柿沼美咲)

宮代町社会福祉協議会

高橋主査によると、自治会離れ

いつ。

や民生委員の不足などの課題から約2年前に事業を発足。困つてい家庭があつても自分が届きにく支援の手が届きにくい現状から、地域で多くの目を張り巡らせ、異変を早期に発見することが狙いと

いる(11月27日現在)。



「みまもりさん」の証しのオリジナルサコッシュを持つ菅生康子さん(左)と勝俣洋子さん—18日午後、宮代町社会福祉協議会

日常生活で「無理なく」

見守り意識の継続には、無理のない緩やかな活動が大切と考え、活動者による定期的な集まりや報告もない。活動者は異変を感じたときに同町社協か同町役場に連絡する。高橋主査は「例えば日頃の散歩時に見守りの意識を持つなど『新たに何か活動しなくても見守りができるんだ』と思つてもらえたら」と話す。

そうした日頃からの見守り意識で、今回初めて人命救助につながったケースも。「いつも雨戸が開いた、開かないを確認している。雨戸が夜になつても開いていた」。

11月のある晩、同町学園台の菅生康子さん(74)は近所に住む1人暮らしの高齢男性の異変を発見したこともある。

菅生さんは近所に住む勝俣洋子さん(76)に声をかけられて「みまもりさん」に。勝俣さんは約2年間で100人の「みまもりさん」の登録者を増やし活動の輪を広げた。勝俣さんは「絶対に孤独死する人を出したくない」と力を込める。

宮代町の新井康之町長は「これからも誰もが安心して暮らせる町づくりへのご協力をお願いいたします。みまもりの輪が町中に広がるといいで」とコメントしている。

問い合わせは、同社協(☎04

80・32・8199)へ。

⑤これからの展望・まとめ

- ・学園台地域をモデルとして、他の地域にも見守りの必要性を訴えていく。
- ・スーパーみまもりさんを増やす。（口コミが一番伝わる。）

一番大事なことは、「日常生活の中でできるときにできること」をしてもらう。けして無理をしない。少しでも見守りの意識をもってもらうことが大切。

多くの地域で「みまもりの輪」が広がっていけば



皆さん安心して地域で生活を送ることができます！

ご清聴ありがとうございました。